

令和 5 年 5 月 29 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00369

研究課題名(和文) テクストの公と私 蘇軾の詩詞・書簡と文集編纂に関する研究

研究課題名(英文) Public and Private in Literary Text: A Study of Su Shi's Poetry, Letters and Anthologies

研究代表者

浅見 洋二 (Asami, Yoji)

大阪大学・大学院人文学研究科(人文学専攻、芸術学専攻、日本学専攻)・教授

研究者番号：70184158

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：中国宋代を代表する文人蘇軾の詩詞・書簡およびその文集編纂について、文人を取り巻く社会的圏域を視野に入れながら考察を加えることにより、主として以下の点を明らかにした。

(一) 詩詞や書簡は、専ら公的な社会圏域に属する詔勅や上表とは異なって、私的な圏域と公的な圏域との両者にまたがって制作・受容されるテキストである。蘇軾の詩詞・書簡には、そのような特徴が従来になく鮮明に現れている。

(二) 政治犯として罪に問われた蘇軾の作品は弾圧を受け、公的な圏域に受け入れられなかった。しかし、蘇軾はその弾圧をかいこくぐるようにして私的な圏域において詩詞・書簡を書き続けた。そこには蘇軾独自の表現戦略が窺われる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来の文学研究は、ややもすると文学作品本体の文学性を中心に据えて行われる嫌いがあった。それに対して本研究は、作品をとりまく社会的圏域の在り方を視野に入れた点で独創的な学術的意義を有する。

本研究では特に「公私」という観点から、蘇軾の文集に収められた詩詞・書簡を検討し、そこに表現された文人の「私」的世界が、「公」的な社会圏域との間にいかなる緊張関係を有しているかを明らかにした。これは、「公」と「私」の関係性が急速に変容を強いられている現代社会における個人の在り方を省みるうえでも参考の価値がある。その点において、一定の社会的意義を有すると考えられる。

研究成果の概要(英文)：In an examination of the poetry, letters and anthologies of Su Shi, a representative poet and writer of the Song Dynasty, and with attention to the societal perspective of men of letters, the following main points were clarified.

(1) Differing from imperial edicts and presentations to the throne, which are exclusively in the public domain, poetry and letters are textual forms that are produced and received across both public and private spheres. Su Shi's poems and letters clearly feature such characteristic, unseen in preceding literature.

(2) The works of Su Shi, who was subjected to political persecution, were suppressed, and therefore not accepted in the public domain. However, Su Shi cleverly circumvented such treatment, continuing to write poetry and letters in the private sphere, wherein his unique expression strategy appears.

研究分野：中国文学

キーワード：文学テキスト 公私 蘇軾 詩詞 書簡 文集

## 1. 研究開始当初の背景

研究代表者(浅見)はこれまで主として(1)「蘇軾の詩の草稿に関する研究」(2)「蘇軾の詩詞・書簡と言論統制の関係に関する研究」を行ってきた。その概要は次の通りである。

(1)「蘇軾の詩の草稿に関する研究」は、南宋期に編まれた蘇軾詩集の注釈に見られる蘇軾詩の草稿(親筆原稿)に関する記録に着目し、その文献学的・文学論的意義について考察を加えたものであり、次の諸点を明らかにした。蘇軾詩の草稿に書かれたメッセージは、後に文集に収められるテキスト(集本)と表現を異にするものが多い。草稿の表現が極めて私的な傾きを見せるのに対して、集本のそれは私的な要素が削ぎ落とされ、より公的な傾きを見せている。ここからは、蘇軾の詩のテキストが、私的な圏域から公的な圏域へと存在形態を変えていったプロセスを具体的に見て取ることができる。かかるプロセスが明確に示されている点において、蘇軾詩のテキストは画期的な資料価値を有する。

(2)「蘇軾の詩詞・書簡と言論統制の関係に関する研究」は、北宋中後期の新旧両党による党派闘争に巻きこまれた蘇軾が、公的な圏域では言論・創作活動を抑制する一方で、私的な圏域では少なからぬ詩詞や書簡を書き、親しい友人らとやりとりしていたことを明らかにした。そうしたテキストのあり方を通して、秘密の圏域とも呼ぶべき私的なテキスト圏域が浮かびあがってくる。その圏域のなかで蘇軾のテキストは交換・保存・伝承され、やがて各種の文集へとまとめられていったのである。

以上、(1)(2)の研究を通して、蘇軾の詩詞・書簡テキストを取り巻く社会的圏域について、文集編纂との関連を視野に入れた研究を着想するに至った。

さて、文学作品をはじめとする各種テキストは、それ自体で存在することはできない。それを生み出し、受けとめ、伝えてゆく人間集団やそれによって構成される社会があってはじめて成り立つもの、社会的な圏域・ネットワークのなかにあって存在するものである。

では、前近代中国の各種テキストは、どのような圏域において生み出され、読まれ、受け継がれたのか。詔勅・奏議・策論などの場合であれば、答えは比較的容易に導かれよう。その制作・受容・伝承のほとんどすべての側面において、公的な圏域、すなわち皇帝を頂点とする官僚士大夫集団によって形作られる圏域に属するテキストであった、と。だが、詩詞や書簡(尺牘)などのテキストの場合、公私さまざまな圏域に関わる形で存在しており、簡単に概括することはできない。その多様で複雑な存在形態を解明すべく、本研究は構想された。

本研究が主たる対象とするのは、北宋・蘇軾の詩詞および書簡テキストである。蘇軾は、前近代中国を代表する文人官僚であり、詔勅・奏議・策論などの公的な政治文書のほか、詩・賦・詞などの韻文作品はもちろんのこと、多種多様な書簡を数多く書きのこしている。そのジャンルの多様さ、作品数の多さは群を抜いている。前近代中国における各種テキストの制作・受容・伝承のあり方を考察するうえで、蘇軾のテキストは他に類を見ないほどに充実した資料群を提供してくれている。

本研究では、蘇軾の詩詞および書簡テキストを考察するに際して、蘇軾の文集(詩文集)編纂との関連に重点を置く。なぜ、文集編纂と関連づけるのかと言えば、それは文集こそが個々のテキストを社会的存在として支える器であるからである。テキストは、文集に収められることによって私的な圏域を脱し、社会の公的な圏域へと送り出される。そして、多くの読者を獲得し、後世へと保存・伝承されてゆく。つまり文集は、テキストを取り巻く圏域の「公」と「私」を結びつける結節点としての役割を果たしている。この文集編纂の問題と関連させることで、蘇軾の詩詞や書簡の社会的存在形態はより明確になると期待される。

## 2. 研究の目的

従来、蘇軾のそれに限らず、詩・賦・詞などの韻文作品については、その芸術性・文学性を分析する作品論的研究、作者や作者の人生に結びつける形での作者論的研究などが行われてきたが、その多くはテキストの表現形式や表現内容を論ずるものであり、テキストがどのような社会的圏域において作られ、読まれ、伝えられたか、テキストの社会的存在形態を論ずる視点は稀薄である。一方、書簡については、そもそもそれを正面から論ずる研究自体が極めて少ない。部分的に論及される場合も、そこに書き記された情報を基に文人の生活や交遊が論じられることはあるが、テキストの社会的存在形態が論じられることはほとんどない。

本研究は、かかる研究上の空白を補うことを目的とする点で独創性を有するが、加えて蘇軾の文集(詩文集)編纂に関する問題と関連づける点でも独創性を有する。

蘇軾の場合、自分自身の手で文集を編纂していた。それだけでなく、蘇軾以外の者が編纂した文集も少なからず通行していた。蘇軾の死後も、さまざまな文集が数多く編纂され続けてゆく。その過程で、従前の文集に漏れていた私的な書簡が集められ、また詩詞に注釈が附されるなどしたほか、書簡および奏議・詔勅・策論などの公的文書を専門的にまとめた文集(専集)も編まれるなど、質量ともに極めて多彩で豊饒な様相を呈している。

蘇軾の詩詞・書簡テキストの制作・受容・伝承のあり方は、このような文集編纂と完全に切り離して論ずることはできない。まず、その制作のあり方について言えば、文集に収めること、すなわち公的な圏域に送り出すことを前提にして書かれたテキストと、文集には収めず私的な圏

域に留め置くことを前提にして書かれたテキストとの間には、看過し得ない根本的な違いが存すると考えられる。文集に収めることが前提になっていたか否か、その違いがテキストの制作のあり方とどのように関わっていたかを明らかにすること、これが本研究の主たる目的の一つである。

詩詞・書簡テキストの受容・伝承のあり方について見ても、文集との関連は密接不可分である。そもそも、それらのテキストは文集に収められることで広く社会に流通し、同時代の、また後世の読者を多く獲得した。また、読者の需要を反映して、文集の編纂者によって詩や詞に注釈が附され、従前はまとめて読まれることのなかった私信が読みやすい形に整理されていった。このように、もとは私的圏域のなかに留まっていたテキストが、文集を介して公的な圏域へと送り出され、幅広く受容・伝承されてゆくプロセスを分析することもまた本研究の主たる目的であり、従来の研究では手つかずのままにのこされた重要な課題である。

### 3. 研究の方法

本研究は、上記の基本目的を達成すべく、(1)「蘇軾の書簡と文集に関する文献学的研究」、(2)「蘇軾の詩詞と書簡の相互関連に関する研究」、(3)「蘇軾の書簡と奏議・詔勅・策論との比較研究」の三つを基軸に据えて行われる。

(1)「蘇軾の書簡と文集に関する文献学的研究」は、従来ほとんど正面から研究されることのなかった蘇軾の書簡について、各種文集の編纂状況と関連づけながら考察する基礎研究である。中国において、書簡は古くから独立した文体として認められ、さまざまな作品が書かれてきた。文集にも「書」の分類(部立て)が設けられている。それら「書」と呼ばれる書簡の多くは公的な圏域に送り出すことを前提に書かれていた。蘇軾も、その種の書簡を書いており、蘇軾自編の『東坡集』をはじめとして、文集の「書」部に収められて伝わる。

蘇軾の場合、特に注目されるのは、これらの公的な性格の強い書簡に加えて、本来は公開を前提としていなかった私的書簡が数多く伝わっている点である。それらのテキストは、蘇軾の没後、南宋編の『東坡外集』などの文集の編纂者の手で集められ、「尺牘(小簡)」と呼ばれる私信の部に収められて伝わったものである。こうした「尺牘」の受容・伝承のあり方について、南宋以後、明清に至る時期に編纂された各種文集を広く視野に入れて解明する。

(2)「蘇軾の詩詞と書簡の相互関連に関する研究」は、蘇軾の詩詞および書簡テキストの社会的存在形態について、相互の関連に焦点を当てて考察を加える。蘇軾は北宋中後期の党派闘争に巻き込まれ、その作品が弾劾の対象となった。このため、公的な圏域での言論・創作活動を抑制し、親しい友人・同志との間で形作られる私的な圏域において秘やかに詩詞や書簡をやりとりするにとどめていた。ここでは、かかる私的圏域内における詩詞および書簡テキストの制作・交換・受容・流通の諸相を総合的に解明する。また、それによって党争下の言論弾圧・言論統制の実態について文学研究の立場から新知見を提示することをめざす。

上記に加えて、蘇軾の詩詞と書簡の相互関連に関して特に注目したいのは、両者がセットとなって、時には書簡のなかに詩詞が直接書き入れられる形で交換されていたことである。この点については、すでに発表した論文において初歩的な考察を行っている。その成果を踏まえて、書簡と詩詞テキストの相互関連の諸相を具体的に解明する作業を進めたい。

(3)「蘇軾の書簡と奏議・詔勅・策論との比較研究」は、書簡という私的要素の強いテキストと、その対極に位置する奏議・詔勅・策論といった公的要素の強いテキストとを比較・対照する形で考察を加える。蘇軾は官僚士大夫として政治活動にも関わっており、限られた期間ではあるが要職に就いたこともある。そのなかで、さまざまな公的文書の作成にも携わった。それらのうち、ここでは特に奏議・詔勅・策論に着目する。これらのテキストは、従来はもっぱら政治史の資料として活用されてきた。文学研究の対象となるのは本研究がはじめてと言ってもよいだろう。

また、蘇軾の場合は後世、それらの公的文書を専門に収録する文集、すなわち『東坡奏議』十五卷、『東坡外集』三卷、『東坡内集』十卷、『東坡応詔集』十卷などが編まれた点も大いに注目される。一方で、蘇軾には『東坡先生往還尺牘』十卷、『東坡先生翰墨尺牘』八卷など、南宋の坊刻本に淵源すると推測される書簡のみを収めた専集が編まれている。いずれも文人官僚たちの文章作成の手本となったものと推測されるが、なお十分に解明されていない。本研究では、これら各種専集が、どのようにして編まれたのか、またどのように読まれ、活用されたのか、それらを取り巻く社会圏域に着目しながら考察する。いずれについても、従来の研究では取りあげられることがなく、本研究がはじめて取り組む課題である。

なお本研究では、上記(1)(2)(3)の研究を進めるに当たって、蘇軾以外の文人の各種テキストについても可能な限り幅広く対象として取りあげる。例えば、唐の白居易、北宋の欧陽脩・黄庭堅など。特に書簡については、欧陽脩・黄庭堅に関する研究は不可欠である。彼らの場合も、南宋期に至って、従前の文集に漏れていた「尺牘」の類が数多く集められる。これらの文集も視野に入れることで、蘇軾の文集編纂に見られる特質をより明確なものとしようと試みた。

### 4. 研究成果

本研究は、北宋・蘇軾の詩詞・書簡テキストと文集編纂について、当時の文人社会の圏域・ネットワークと関連づけながら考察することを目的とし、(1)蘇軾の書簡と文集に関する文献学的研究、(2)蘇軾の詩詞と書簡の相互関連に関する研究、(3)蘇軾の書簡と奏議・詔勅・策論との比較研究の三つを基軸として実施した。以下、年度別に述べよう。

2019年度

全研究期間の初年度にあたる本年度は、上記のうち(1)の研究を年度を通して行った。これについては、南宋における蘇軾文集、特に『東坡外集』について重点的に考察を加えた。具体的には、のちに編纂される各種東坡集における書簡収録状況との比較を行った。

本年度は上記に加えて、(2)の研究に着手した。特に蘇軾の書簡のなかに詩詞が書き込まれたケースに着目して考察を加えた。この研究においては、詩詞テキストの交換・流通の実態を当時の文人社会の圏域・ネットワークとの連関に重点を置いて検討することに重点を置いて実施した。

以上の研究成果は、「文本的“公”与“私” 蘇軾尺牘与文集編纂」(『文学遺産』2019年第5期)、「『避言』と『秘密』 中国の詩をつらぬくもの」(『現代詩手帖』第63巻第4号)などの論文、および中国宋代文学学会での口頭報告「罪与田園 蘇軾、陸游詩文札記」(2019年10月、復旦大学)として発表した。

2020年度

全研究期間の第二年度にあたる本年度は、上記(1)の研究については、南宋における蘇軾文集、特に『東坡外集』について重点的に考察を加えた。

(2)の研究については、特に蘇軾の書簡のなかに詩詞が書き込まれたケースに着目して考察を加えた。この研究においては、詩詞テキストの交換・流通の実態を当時の文人社会の圏域・ネットワークとの連関に重点を置いて検討することに重点を置いて実施した。本年度は、南宋の文人陸游との比較にも範囲を広げて考察を進めた。

本年度は(3)の研究にも着手した。陸游との比較を中心に初歩的な考察を行った。

以上の研究成果は、「罪与田園 蘇軾、陸游研究的一个視点」(『文学論衡』総第36期、2020年6月)および「罪与田園、あるいはヒン風について 蘇軾・陸游ノート」(『大阪大学大学院文学研究科紀要』第61巻、2021年3月)として公表した。

2021年度

全研究期間の第三年度にあたる本年度は、上記(1)の研究については、南宋における蘇軾文集、特に『東坡外集』について引きつづき考察を加えた。

(2)の研究については、詩詞テキストの交換・流通の実態を当時の文人社会の圏域・ネットワークとの連関に重点を置いて検討することに重点を置いて実施した。特に、詩詞が書簡を代行するテキストとして交換されるケースに着目して考察した。具体的には、弟の蘇轍との詩の交換を取りあげ、その状況を整理するとともに、南宋の文人陸游のケースと比較しながら、その特質を明らかにしようと試みた。(3)の研究については、引きつづき陸游との比較を中心に初歩的な考察を行った。

以上の研究成果の一部は、日本中国学会第73回大会(2021年度10月、愛知大学)において「陸游における田園と国家 「耕織図詩」「諭俗文」を手がかりに」と題する口頭発表として公表した。後に論文「陸游詩中の田園与国家：以 耕織図詩 及勸農文、諭俗文為線索」(衣若芬編『五声十色：文図学視聴進行式』文図学会、2022年5月)として公表。

2022年度

全研究期間の最終年度にあたる本年度は、上記(1)の研究については、南宋における蘇軾文集、特に『東坡外集』について引きつづき考察を加えた。

(2)の研究については、詩詞テキストの交換・流通の実態を当時の文人社会の圏域・ネットワークとの連関に重点を置いて検討することに重点を置いて実施した。特に、詩詞が書簡を代行するテキストとして交換されるケースに着目して考察した。具体的には、弟の蘇轍との詩の交換を取りあげ、その状況を整理するとともに、南宋の文人陸游のケースと比較しながら、その特質を明らかにしようと試みた。

(3)の研究については、引きつづき陸游との比較を中心に初歩的な考察を行った。

上記の研究を通して最終的には、蘇軾文学の理解のためには陸游との比較に注力する必要があることを認識するに至った。次の科学研究費補助金による研究として、蘇軾・陸游の比較研究を行うべく、計画に着手したい。

蘇軾・陸游の比較研究の成果の一部は、「父と子 蘇軾・陸游の詩における「孝」をめぐって」(『国学院中国学会報』第68輯、2022年12月)と題する論文として公表した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>浅見洋二                         | 4. 巻<br>36          |
| 2. 論文標題<br>罪与田園 蘇軾、陸游研究的一个视点           | 5. 発行年<br>2020年     |
| 3. 雑誌名<br>文学論衡                         | 6. 最初と最後の頁<br>12-29 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし          | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-           |

|  |                      |
|--|----------------------|
| 1. 著者名<br>浅見洋二                         | 4. 巻<br>61           |
| 2. 論文標題<br>罪と田園、あるいはヒン風について 蘇軾・陸游ノート   | 5. 発行年<br>2021年      |
| 3. 雑誌名<br>大阪大学大学院文学研究科紀要               | 6. 最初と最後の頁<br>47-134 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし          | 査読の有無<br>無           |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-            |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>浅見洋二                         | 4. 巻<br>2019-5      |
| 2. 論文標題<br>文本的“公”与“私” 蘇軾尺牘与文集編纂        | 5. 発行年<br>2019年     |
| 3. 雑誌名<br>文学遺産                         | 6. 最初と最後の頁<br>72-84 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし          | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-           |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>浅見洋二                         | 4. 巻<br>63-4        |
| 2. 論文標題<br>「避言」と「秘密」 中国の詩をつらぬくもの       | 5. 発行年<br>2020年     |
| 3. 雑誌名<br>現代詩手帖                        | 6. 最初と最後の頁<br>62-69 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし          | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-           |

|  |                      |
|--|----------------------|
| 1. 著者名<br>浅見洋二                         | 4. 巻<br>1            |
| 2. 論文標題<br>韓愈「拘幽操」について－罪人の文学史・初探       | 5. 発行年<br>2020年      |
| 3. 雑誌名<br>唐宋八大家の諸相                     | 6. 最初と最後の頁<br>93-129 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無           |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-            |

|  |                      |
|--|----------------------|
| 1. 著者名<br>浅見洋二                         | 4. 巻<br>61           |
| 2. 論文標題<br>罪と田園、あるいはヒン風について 蘇軾・陸游ノート   | 5. 発行年<br>2021年      |
| 3. 雑誌名<br>大阪大学大学院文学研究科紀要               | 6. 最初と最後の頁<br>47-134 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無           |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-            |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>浅見洋二                           | 4. 巻<br>1           |
| 2. 論文標題<br>陸游詩中の田園与国家：以 耕織図詩 及勸農文、論俗文為線索 | 5. 発行年<br>2022年     |
| 3. 雑誌名<br>五声十色：文図学視聴進行式                  | 6. 最初と最後の頁<br>13-39 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし           | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難   | 国際共著<br>-           |

|  |                    |
|--|--------------------|
| 1. 著者名<br>浅見洋二                         | 4. 巻<br>68         |
| 2. 論文標題<br>父と子 蘇軾・陸游の詩における「孝」をめぐって     | 5. 発行年<br>2022年    |
| 3. 雑誌名<br>国学院中国学会報                     | 6. 最初と最後の頁<br>1-24 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-          |

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 3件）

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>浅見洋二                                   |
| 2. 発表標題<br>陸游の鄉村世界与耕織図詩                           |
| 3. 学会等名<br>2021台湾与東亜の文本・圖像・視聽文化国際學術論壇（招待講演）（国際学会） |
| 4. 発表年<br>2021年                                   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>浅見洋二                          |
| 2. 発表標題<br>陸游における田園と国家 「耕織図詩」「諭俗文」を手がかりに |
| 3. 学会等名<br>日本中国学会第73回大会                  |
| 4. 発表年<br>2021年                          |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>浅見洋二                             |
| 2. 発表標題<br>罪人と盲者 中国文学中光明与暗の象徴体系             |
| 3. 学会等名<br>感受、類推与寄託 「興」の国際學術研討会（招待講演）（国際学会） |
| 4. 発表年<br>2021年                             |

|                                 |
|---------------------------------|
| 1. 発表者名<br>浅見洋二                 |
| 2. 発表標題<br>罪与田園 蘇軾、陸游詩文札記       |
| 3. 学会等名<br>中国宋代文学学会（招待講演）（国際学会） |
| 4. 発表年<br>2019年                 |

|                                    |
|------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>浅見洋二                    |
| 2. 発表標題<br>父と子 蘇軾・陸游の詩における「孝」をめぐって |
| 3. 学会等名<br>国学院大学中国学会第65回大会         |
| 4. 発表年<br>2022年                    |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号) | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号) | 備考 |
|---------------------------|-----------------------|----|
|                           |                       |    |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|         |         |